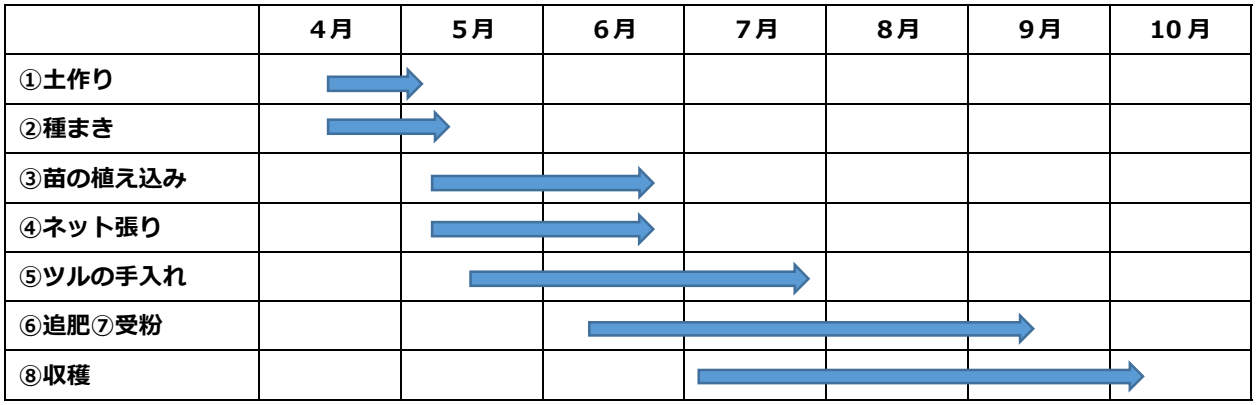
緑のカーテン作りに取り組み、景観と省エネを考えよう

作業スケジュール



①土を作ろう【４月～５月上旬】

庭の土で植え込む場合

庭土に石灰をまいてから１０日後くらいに堆肥・肥料をまいて耕し土を熟成させる。苗の植え付け２週間前くらいに終わらせておく。

【用意するもの】

・石灰（苦土石灰・消石灰）

使用目安は１㎡当たり 60 から 120ｇ

・堆肥

１㎡当たり 3～5 ㎏

・肥料

元肥は全面にまいて土全体にすき込む。追肥は株元から少し離れたところにまく。

元肥・・１㎡当たり 100～120ｇ

追肥・・１㎡当たり 30～40ｇ（開花後２週間ごと）

プランターで植え込む場合

プランターで栽培する場合は、できるだけ大きめの深さのあるものを選ぶ。苗の植え付けの２週間前くらいに、培養土に肥料を入れてたがやして熟成させておく。

【用意するもの】

・野菜用のプランター

１株当たり 30 ﾘｯﾄﾙ（２株なら 60 ﾘｯﾄﾙくらい）

・野菜用培養土

プランターの容量に合わせる

・鉢底石

鉢底が隠れる程度。軽石で大粒が良い

・肥料

追肥用化成肥料１株当たり 10ｇ（開花後２週間ごと）

※昨年使用した土は、連作障害が出るので、土を入れ替えるか連作障害対策のリサイクル材をすき込む（土１ﾘｯﾄﾙ当たり 50ｇくらい）

②種をまこう【４月～５月中旬】

土を作る準備とは別に、種をまいて発芽させましょう。

ポリポットなどを利用した発芽容器や、小さいビニールポットなどに種をまき、種がかくれるくまで土をかぶせます。種を植えたら、土が流れないように水をたっぷり優しくあげます。

水やりは土が乾かないように毎日行います。

発芽温度が 25℃くらいなので、（室内に入れるなど）ある程度の保温が必要です。順調にいけば数日で芽が出てきます。初めて植える方は、市販の苗から始める方が簡単です。

【用意するもの】

・種・・・市販品など

・発芽容器・・・ポリポット、育苗容器など（使わなくなった蓋付きのトマトなどの容器でも可）

・土・・・育苗培土（肥料のないタイプ）

・覆い・・・タオル・ダンボール・スチロール容器など（種・苗が夜間、低温時に冷えないように覆うもの）

・爪切りや堅いものを切れるはさみ・・・種の発芽を促すため、種の殻を少し切る。

③苗を植えよう【５月～６月中旬】

・苗から育てて苗が 3～4 枚になった頃、5 月中旬以降に、植え込む。

・各苗は 30～50 ㎝間隔をあけながら植える。（地域によっては、防風・低温対策が必要

です）ビニールや寒冷紗などを使って対策をしましょう。

・庭に地植えする場合は、50～60 ㎝間隔で、プランターの場合は、60 ㍑プランターで 2 株くらい（植え付け間隔は 30～40 ㎝くらい）。

・株元から少し離れたところに園芸用の棒を突き刺し、ネットとつないでツルを誘因する。

・植え込み１ヶ月くらいまでは、土の表面が乾いたらたっぷり水やりをします（プランターの場合、底から水が出てくるくらい）。

・気温が高くなってきたら、朝か夕方の 1 日 1 回、夏季は毎日朝夕に十分に水やりをします。下葉が黄色くなってきたり葉っぱがしおれてきた時は、水不足の場合が多いです。

※昼間の暑いときに水やりをすると、鉢やプランターの中で、水が熱湯になり根が焼けて枯れてしまうので、絶対にやめましょう。

④ネットを張りましょう【５月～６月中旬】

・ツルが伸びてきたら、ネットにからませます。ネットは 10 ㎝角目の園芸用ネットがおすすめです。このネットをしっかり張り、風で揺れないようにすることが、良好な生育には必要です。そのためにの補強材として園芸用支柱（パイプ）やロープ、結束バンドなどを使用しましょう。

【用意するもの】

・支柱（パイプ）・・・園芸用のものでネットの高さや幅に合わせて用意。

・抗・・・園芸用のもの。

・ネット・・・網目寸法 10 ㎝程度の園芸用ネット。長さや幅は張る場所に応じて。

・結束バンド・・・電気工事用の比較的大きいもの。色は黒の方が屋外で劣化しにくい。

【ネットの張り方】

〔庭の土で植え込む場合〕

・ネットの上端と下端をそれぞれ、パイプ等に結束バンドで締め付け固定する。

・ネットの上端を、ベランダや軒下に固定する。

・ネットをゆがみが無いように張り、下端を地面に園芸用の杭を打ち込み固定する。

（ゴーヤのカーテンが完成するとかなりの重量になるので、ネットの固定はできるだけ強固にしておいた方が安全です）

※ゴーヤの生育のため、ネットと壁（あるいは窓）との距離を１mほど空けておいた方が良いでしょう。

〔プランターで植え込む場合〕

・プランターを置く場所がコンクリートなどの場合、プランターの下にネットを巻き込み固定する。

※プランターを置く場所がコンクリートなどの高温になりやすい場合、鉢底が高温になり根が枯れてしまうので、レンガやブロックをプランターの両端に置き、その上にプランターを置くような工夫が必要です。

根元を腐葉土で覆うようにすると、日光が直接あたらず、水持ちも良いです。

⑤ツル手入れしましょう【５月中旬～６月下旬】

・ゴーヤをグリーンカーテンに仕立てるためには、ゴーヤの特性である育成温度が 20～30℃くらいであること、カーテンに仕立てるための摘芯と、分枝したツルを横に這わせることが大切です。

・ツルがネットに上手く巻きついていないときは、麻紐やビニール紐でネットに結んで助けてあげましょう。葉が茂ってきたら適度に葉をカットして風通しを良くします。

・植え付けして、本葉 6～７枚になったら、その先端の芽を摘みます（摘芯）。摘芯をやることで、強いわき芽がでます（分枝）。

・１つの苗で３～４本ほどに分枝させ、ネットに扇状に誘導すると、横に広がって、カーテン状になります。

・摘芯せずにほっておくと、上にまっすぐ伸びてしまい、葉の間が大きく空いてカーテン状になりません（初心者がよく失敗する原因です）。

・上に伸びようとするツルの先端をカットして横に這わせると葉が密になり、ツルの途中から分枝してネット一面に葉が茂るようになります。毎日の手入れが必要です。

良い例（きれいなカーテン）

悪い例（摘芯を行わなかった）

⑥追肥をしましょう【６月～９月上旬】

ゴーヤは生育が旺盛です。元肥だけでは不足してきますので、生育に合わせて追肥が必要です。

	４月	５月	６月	７月	８月	９月	10 月
液体肥料		→	→				
液体肥料は、植え付けてから間もない幼苗時期に適します。							
	４月	５月	６月	７月	８月	９月	10 月
固形肥料(化成)			→	→	→	→	
固形肥料(化成)は、花が付く頃から適します。月に２度程度、１株に 10 ｸﾞﾗくらい与えます。							

⑦受粉をさせる方法もあります【６月～９月上旬】

植え付けから 30 日以降になると、花を付けます。花は雄花と雌花の２種類です。はじめのうち雄花が先に咲いて、あとから雌花が咲いてきます。低温時と 30℃を超えるときは、生育が遅くなりツルが伸びなくて雌花も付きにくくなります。花は１日でしぼんでしまうので、朝のうちに雄花を摘んで雌花のめしべに受粉させると確実に実がなりす。

⑧収穫できます【７月～１０月上旬】

受粉後、15～20 日でゴーヤ収穫ができます。青い実の時に収穫しましょう。実の先が薄黄色になり始めたら、食用としては熟しすぎになります。こうなると全体に黄色く柔らかくなり、まもなく実が裂けて中から真っ赤な種が顔を出します。